

インドネシアの小学校美術教育について

福田 隆眞・佐々木 宰^{*1}

On the Learning Materials of Primary School Art Education in Indonesia

FUKUDA Takamasa, SASAKI Tsukasa^{*1}

(Received August 3, 2015)

キーワード：インドネシア、小学校、美術教育、教材

はじめに

筆者は既にインドネシアの美術教育について報告をしてきた。(注1) 調査研究を始めたのが1996年であり、約20年が経過している。この20年間に、政治体制の転換、経済発展や文化活動の活性化などが促進された。美術教育についても整備がなされてきた。そこで、近年では2013年に現行の教育課程と中学校の美術教育の教材の調査を行った。本稿はそれに引き続いて現行の小学校における美術教育の教育課程と教材について報告をする。なお、本研究は科学研究費助成事業によるものである。(注2)

1. インドネシアの小学校美術教育課程

インドネシアの現在の基礎教育(小中学校教育)の小学校では、教科は8教科あり、「宗教と道徳」「パンチャシラ・公民教育」「国語(インドネシア語)」「数学」「理科」「社会科」「芸術文化と工芸(Seni Budaya dan Prakarya)」「保健体育」が開設されている。(注3) 理科と社会科は4-6学年開設である。美術教育は「芸術文化と工芸」の教科に含まれている。1-3学年が週に4時間、4-6学年が週に5時間となっている。この教科には美術、音楽、舞踊の内容が含まれており、芸術を統合的に扱っている。以前にも教科名としては「手工芸と芸術(Kerajinan Tangan dan Kesenian)」となっており、美術教育における工芸の重視が見られる。しかし実際の教材は、美術、音楽、舞踊のそれぞれの教材が独自に扱われており、内容的な統合がなされているわけではない。

1-1 小学校美術教育課程の基礎

美術教育の内容は、「芸術文化と工芸」の教育課程において以下のように示されている。

第1学年では4つの要点に分けられ、それぞれの要点に基礎能力が具体的に示されている。要点1では創造主としての神による自然美のことが示されている。要点2では芸術の活動を通して育成する内容が示されている。さらに要点3では、活動の分野、要点4で活動内容が提示されている。(注4) なお本稿では音楽と舞踊の内容については割愛する。

要点1：宗教の教えを受け入れ遂行する。

基礎能力

1.1：神の力の一つとしての自然美を感じる。

要点2：家族、友人、教師との相互交流において真面目な行動、訓練、責任感、礼儀正しさ、関心、そして自分を信じることを身につける。

*1 北海道教育大学釧路校

基礎能力

- 2.1：美術作品を作ることによって自己表現の練習のために自分が信じている感情を説明する。
- 2.2：美術作品のアイデアの源泉としての環境を知るための気持ちを説明する。
- 2.3：美術作品を通して環境に対する訓練、責任、礼儀正しさを説明する。

要点3：神の創造物や家や学校で会うものを聴いたり見たり読んだりして観察し、また知りたい気持ちに基づいて質問したりして知識の機能を理解する。

基礎能力

- 3.1：表現の方法を知り、絵を描く。
- 3.2：（音楽の内容）
- 3.3：（舞踊の内容）
- 3.4：工芸の制作において様々な材料、用具とその機能を観察する。
- 3.5：芸術文化の作品とその地域の用語を知る。

要点4：明らかで論理的な言語、審美的な作品、子どもの健全さを反映する活動、信念と崇高な性格を子どもに反映する行動における知識を提供する。

基礎能力

- 4.1：身の周りの作品の観察に基づいて線、色、形態を使って表現的な絵を描く。
- 4.2：有用で様々な技法と自然の材料を使って簡単な印刷をしてデザインの作品を作る。
- 4.3：有用で乾燥した媒体で絵を描く。
- 4.4：やわらかい材料で造形物を作る。
- 4.5-4.8：（音楽の内容）
- 4.9-4.12：（舞踊の内容）
- 4.13：折る、切る、貼る、の活動で身の回りのものを使って創造的な作品を作る。
- 4.14：自然の材料を使って、折る、切る、貼る、によって簡単な木の形を創造的に作る。
- 4.15：やわらかい材料で機能的、創造的な作品を作る。
- 4.16：簡単な方法で根菜の材料を料理する。
- 4.17：地域の芸術文化遺産とその言葉を語る。

1-2 小学校美術教育課程の順次性

前項は小学校第1学年の美術教育課程であるが、2学年以降は順次性を有している。たとえば目的にあたる要点1は、第2学年では「神の力の一つとしての芸術作品に美を楽しむ」、第3学年では「神の恩恵としての芸術作品の制作と創造性を人間のユニークな能力として伸ばす」、第4学年では「神の恩恵として地域の様々な創造的な芸術作品の美の特徴を賞賛する」、第5学年では「神の恩恵としての地域の芸術作品の豊かさや種類を受け入れる」、第6学年では「神の恩恵としての芸術作品を評価し母国の誇りの気持ちを持つ」となっており、芸術作品を取り巻く価値観が向上している。

また、内容的な順次性も整えられており、3学年までは造形要素の基礎的なものが扱われ、描画の対象も材料用具も容易なものが取り上げられている。4学年以降は、コラージュやモザイクの技法を扱ったり、観察して描いたり、立体作品の教材が加わる。そして6学年では、観察によってプロポーションやコンポジションを習得したり、ポスターやお面といった題材が加わったりして、内容的に複雑になっている。具体的な題材については2で後述する。

活動内容の中に料理の内容が含まれている。これは従前のように料理も芸術として扱っていることの反映である。

2. 小学校美術教育の教材構成

ここではインドネシアの小学校の芸術の教科書「芸術文化とその能力 (Seni Budaya dan Keterampilan)」の具体的な教材を紹介する。(注5) <>内は筆者による解説。

2-1 第1学年

1 表現的な絵

a 形の要素：点、線、面、色、形態（立体）、テクスチャー <点、線、面、色彩、形体と形態の造形要素が雨、花、魚などの具体的な対象を使って説明されている。>

b 表現的な絵：人物画、動植物の絵、テーマが複数の絵 <自分や友達が楽しく遊んでいるところや家族、鳥、花、野菜果物、物語の絵などが例示してある。>

2 コラージュ、モザイク、モンタージュ

a モザイクによる鳥 <画用紙の紙片による鳥の絵の制作手順が図示されている。>

b レーシングカーのモンタージュ <レーシングカーの写真を切り抜いてモンタージュする説明が図示されている。>

c コラージュによる象 <木の皮を貼り付けて象の形を切り抜いて作品を作る。>

3 音とリズム（略）

4 メロディー（略）

5 舞踊の要素（略）

6 アヨ舞踊（略）

7 折る、切る、貼る <折る、では日本の折り紙が扱われている。さらに色紙を切って貼ることで作品制作を行う。>

2-2 第2学年

1 表現的な絵

A 形の要素：1 色彩、2 面、3 形態、4 テクスチャー、（テクスチャーの種類、テクスチャーによる作品：鮫、小舟、私の家、総合的なテーマ、立体の作品）

B 表現的な絵 <ここでは同学年の児童の作品が紹介されている。象徴的な描き方、展開図描法などの紹介もある。>

2 版画

A インクによるたらし絵とデカルコマニー

B 糸張り絵 <糸を絵の具に浸し、紙を折った中に糸を入れ、引っ張ってできる偶然の形を紹介している。>

C 吹き絵

D 葉っぱ、葉脈、果物による版画

E 根菜による版画 <人参、ジャガイモ、牛蒡などの根菜をスタンプにして版を利用して絵を描くことが紹介されている。>

3 音とリズム（略）

4 メロディー（略）

5 基礎的舞踊（略）

6 アヨ舞踊（略）

7 絵の具 <以下では絵の具作りが紹介されている。>

A 絵の具作り：自然材料の絵の具、人口材料の絵の具

B サフランの黄色

C 葉の粉による緑色

D ヘンナの木葉による赤色

E 木炭の黒色

F 青みの魚の青色

G シレー（噛みタバコの種類）の石灰

H ガンビル（皮なめし）の茶色

I 評価

2-3 第3学年

1 装飾的象徴的な絵

A 装飾的な絵（模様）：枠の中の模様、日用品における装飾模様 <身近な日用品の中に見られる模様を紹介している。陶芸品、染織、衣服などに見られる伝統的なオーナメントの紹介>

B 招待状

C 模様で額縁

D シンボルマーク：平面作品のシンボル、立体作品のシンボル <交通信号のサイン、エンブレム、パティックの模様、ボロボドゥールのシンボルなどを紹介している。>

E 額の飾り

F 廃材による装飾

2 創造的な絵

A 自分自身を想像した絵 <様々な表現の自画像を紹介している>

B 身の回りの環境を想像した絵

C モンタージュを使って想像した絵

3 メロディー（略）

4 演奏（略）

5 舞踊の要素（略）

6 簡単な舞踊（略）

7 創造的おもちゃ

A パズル

B 部分を集めた絵

C 数字を使ったおもちゃ

8 風で動くおもちゃ

A 凧

B 風車

C パチンコ

D 蛇

E 鳥

F 模型飛行機

2-4 第4学年

1 ヌサンタラ（インドネシアの古称）の美術文化を知る

A 応用美術：家と建物、染織、伝統的な武器、伝統的な楽器、

B 純粋美術 <バリ絵画や彫刻その他の地域の絵画や彫刻を紹介している。>

2 イラストレーション

A 木の形：木の幹と葉、花、果実

B 物語のイラストレーション：挿絵、コミックと絵本

3 ヌサンタラの工芸 <ここではインドネシアの刺繍や織物を紹介している。>

A 針と糸

B 裁縫

C 刺繍

4 粘土などによる細工

A アヒル

B いろいろな身の回りのもの

C 花瓶

D 石鹼の自動車

E 盾

5 地域の音楽（略）

- 6 メロディー（略）
- 7 演奏（略）
- 8 舞踊の要素（略）
- 9 アヨ舞踊（略）
- 10 構造物
- A 家 <グリッドの製図用紙に家の展開図の図面を描いて組み立てることを図示している。>
- B お菓子のパッケージ
- C ランプシェード

2-5 第5学年

- 1 ヌサンタラの装飾美術
- A 木工
- B 武器 <クリスの種類と模様が紹介されている。>
- C 他の文化の影響
- 2 イラストレーション
- A 動物：2本足の動物、4本足の動物、水の中の動物
- B 人間：顔の表情、体のイラストレーション
- C 物語のイラストレーション：国民的物語、漫画
- 3 お面作り
- A 紙のお面
- B 厚紙のお面
- C 紙片によるお面
- D オンデルのお面
- E 展覧会
- 4 イカット染色
- A モチーフ
- B テーブルクロス
- 5 ヌサンタラの音楽（略）
- 6 音楽の演奏（略）
- 7 舞踊の要素（略）
- 8 舞踊の演出（略）
- 9 束ねる工作 <紙や布、葉っぱ、紐などを使って紐状にした素材で人工的な花を作る。また、紙などを丸めてビーズ状にして暖簾などを作る。>
- 10 マクラメ <マクラメの基本的技法を図示して説明している。>
- 11 踊るおもちゃ <猿や蝶をモチーフにして機構工作としての動きの学習でおもちゃを紹介している。>

2-6 第6学年

- 1 人形
- A いろいろな人形
- B 瓶を使った人形
- C 靴下を使った人形
- D 糸を束にした人形
- 2 バティック
- A いろいろなバティック：技法、用具、モチーフ
- B バティックの模様
- C ジュンプタン（染色の種類）
- D バティック制作
- 3 イラストレーション

- A 絵の要素
- B 雰囲気を表す絵
- 4 ヌサンタラの音楽（略）
- 5 歌唱（略）
- 6 舞踊の動き（略）
- 7 舞踊（略）
- 8 アニヤマン
- A 単一のアニヤマン（編み方が単一）
- B 2倍のアニヤマン（編み方が複数）
- C アニヤマンの創造（編み方の工夫によって籠やバスケットを作製）
- 9 おもちゃの車 <車輪を使ったおもちゃを以下のようなテーマで行う。>
- A 輪：輸送に使う輪、日用品に使う輪、運動に使う輪、工業製品の輪
- B 車を使った鳥の制作
- C 上下運動の機構工作：計画、準備、組み立て、試運転
- 10 展覧会と演劇
- A 計画：実行委員会、計画の検討
- B 準備：展覧会の場所の空間、演劇場

3. 教材の特徴

前章で見たように、インドネシアの小学校の美術教育では、強いて分野に分けると、絵画、デザイン、工作があり、教材は身近なものや地域的なもの、さらには伝統的なものが扱われている。そして絵画では造形要素や造形原理の学習が具体的な題材を通して含まれている。デザインでは簡単なイラストレーションやシンボルマークが見られるくらいで、ほとんど描画の延長として扱われている。工作は身の回りに伝統的な工作が生かされている生活環境にあるので、お面、パティックやアニヤマン、マクラメといった工芸の題材が多く扱われている。また、工作の分野で立体的なデザインとしておもちゃや紙による飛行機や模型などがあり、生産デザインとの関連も見られる。また、後半部分の美術にかかわる教材は総合的な扱いをしていて、2000年以前のシンガポールの美術教科書にも見られた「プロジェクト・ワーク」のような扱いで、共同作業ややや大掛かりな設備を伴う題材である。さらに美術と関連する内容として、展覧会や演劇という内容が高学年に見られる。学校での芸術活動の一環として、こうした内容が重視されている。

美術教育の内容は前述のように「芸術文化」の教科の一部であり、この教科は音楽、舞踊、さらに高学年では展覧会、演劇といった総合化した芸術活動の内容も含まれている。これは統合的、総合的に芸術を扱う考え方で、例えば、台湾の「芸術と人文」の学習領域に類似しているが、美術、音楽、舞踊の内容の関連性が希薄なので「合科」的な扱いであると考えられる。つまり3つの分野が合体した科目である。

4. おわりに～美術教育の文脈～

インドネシアの美術教育の調査を開始したのは1995年である。20年が経過し社会状況も経済状態も変化している。小中学校への就学率も高くなっている。1995年当時は教育課程において美術教育も規定されていたが実質的には実践は少なかった。そして、当時の教育省の小学校教育の担当者のセディオノ氏が言うには、「インドネシアは他民族国家なので地域的、民族的な違いや価値観を統一的に扱うことが難しい。だから教科書もなかなかできない」（注6）と述べていた。当時、「手工芸と芸術」として地域的な教科書は出版されていたが、全国版の教科書は未刊であった。その後、本稿で紹介したように「芸術文化」としての教科書が刊行され、美術教育はその一部になっている。

美術教育で民族的な伝統文化の工芸を重視する教育内容の編成は、マレーシアとも類似している。マレーシアはマレー系、中華系、インド系の3つの民族と先住民から構成され、美術教育においてもそれぞれの伝統文化の継承をマレー中心に行っている。加えて、西洋美術の紹介、デザインの導入などが進められている。経済発展と情報社会の発展に伴って、デザインの教材が導入され、同時に伝統文化も重視されている。そう

した点ではマレーシアとの類似が見られる。

インドネシアは独立以前はオランダが植民地としていた。したがってオランダを中心とした西洋文化、文明が影響を与えたが、絵画の世界においては近代美術の様式や材料用具の影響は受けたものの、小学校教育としての美術の内容にまでは精査されなかったと考えられる（注7）。中等教育においては、現代の美術の紹介としてインドネシアの近代美術が含まれており、西洋美術による表現も紹介されている。マレーシアの小学校美術の教育内容にも類似しているが、小学校教育の段階では自国の文化を重視して教材を作成している傾向がある。そこには自国の伝統文化としての工芸が重視されている。中等教育以降は様々な美術の一環として、西洋美術も取り上げられ、様式、材料、技法がインドネシアの美術として消化された独自性を紹介している。

次に、教育内容と方法に関係する視覚言語の内容がある。1930年代以降、美術教育の発展の一つにデザインの分野から創出された視覚言語がアジアの美術教育にも影響を及ぼしている。それは単にデザインの教育だけでなく、造形全般の創造と理解のための方法ともなっている。シンガポール、マレーシアにおいても造形要素と造形原理を統合した視覚言語の内容が初等中等教育に導入されている。それらはデザインの特徴である国際様式にのっとったインターナショナルな内容ではあるが、美術教育の造形創造として活用される場合、基盤となる美術文化に関連する内容となって現れる。したがって、インターナショナル・スタイルに対峙するローカル・スタイルを見ることができる。プリマディーはインドネシアのローカル・スタイルとしての視覚言語についてインドネシアの人工環境、自然環境、文化遺産などを通して述べている（注8）。インドネシア独自の視覚言語ということができる。同様な内容はマレーシアやシンガポールにおいても言えるし、東アジアに共通する美術表現の一つである水墨画などを対象にして視覚言語の存在を見ることが出来る。

美術教育はその国の持つ独自の文化を基盤として美術を通じて文化を理解することを本質的な目的としている。したがって具体的な題材や目標は地域や時代によって変化するものもある。いわば美術教育の文脈的な流れとして捉えられる。

注

1 すでに以下のような報告を行っている。

- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアにおける美術教育について（1）」、『山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号』，1996.
- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアの美術教育における学習指導要領の位置づけについて」、『山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号』，1997.
- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアにおける美術教育のカリキュラムと実践」、『山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号』，1997.
- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアにおける美術教育について（2）」、『山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号』，1997.
- ・ 福田隆眞：「インドネシアの教員養成における美術教育カリキュラムについて—IKIP Jakarta, IKIP Bandung, IKIP Yogyakartaを事例として—」、『山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号』，1997.
- ・ 小平征雄・福田隆眞：「インドネシアにおける陶芸とその教育についての調査」『北海道教育大学紀要（第1部C）第48巻第1号』，1997.
- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアの中学校美術教育の教材について」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第36号』，2013.
- ・ 福田隆眞・佐々木宰：「インドネシアの近代美術と美術教育について」『山口大学教育学部研究論叢第64巻第3部』，2014.

2 研究代表者：福田隆眞，研究分担者：佐々木宰，課題番号：基盤研究（C）24531136，平成24年度～平成27年度，研究題目：アジアにおける美術教育の文脈研究

3 Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan, “KURIKULUM 2013 Kometensi Dasar Sekolah Dasar/ Mdrsalh Ibtidiyah “, p4, 2013.

4 同上pp. 113-114

5 ここでの教科書は2013年のカリキュラムに基づく最新のものがまだ、刊行されていないので、2006年版のカリキュラムに基づく教科書を対象とした。芸術の内容は教育課程が改訂されても大幅な変更はないと
のことである。使用する教科書は以下である。

- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 1”, Penerbit Erlangga, 2006
- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 2”, Penerbit Erlangga, 2006
- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 3”, Penerbit Erlangga, 2006
- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 4”, Penerbit Erlangga, 2006
- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 5”, Penerbit Erlangga, 2006
- Tim Bina Karya Guru, “Seni Budaya dan Keterampilan untuk Sekolah Dasar Kelas 6”, Penerbit Erlangga, 2006

6 1995年8月の調査による。

7 このことについては福田隆眞、佐々木幸、「インドネシアの近代美術と美術教育について」『山口大学教育学部研究論叢第64巻第3部』、2014において述べている。

8 Primadi Tabrani, “BAHASA RUPA”, Perpustakaan Nasional RI, 2005